児童・生徒の現状・課題

・他者とのかかわりを通して学ぶ中で、自己の学び方を修正することができる。
・自分の考えをもつことはできるが、解決までを見通し自ら計画することは難しい。

学び続ける力を育むための重点目標

〇学習計画を自ら立て、解決までの見通しをもつ。
〇他者とのかかわり合いの中から、自分の学びを得ることができる。
〇学習内容と学習方法の両方の側面から振り返りを行い、次の学習に生かすことができる。

児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(10月)	結果(1月)
①自分で計画を立てて学習をしていますか。	68.2%	75%	74.9%
②学習した学び方を次の学習につなげることができていますか。	76.7%	80%	87.3%

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(10月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	66.6%	73.8%	79.1%
②児童の資質能力を育むために、単元や題材の学習を通して「いつ」「何を」「どのように」評価するかを明確にしている。	63.2%	70%	74.2%

具体的な手だて①

・「見通す」場面において、児童が「知りたい」、「やってみたい」と思わせるような驚きや面白さのある課題設定をして、主体的に見通しをもたせるようにしていく。
【そのために・・・】
・矛盾のある事象を提示し、「なぜ」を引き出す。
・単元のゴールのイメージを明確にもたせる。

具体的な手だて②

・「選択する」場面において、学び方の種類（一緒に取り組む人数、調べる資料、活動する場、ノート等へのまとめ方等）を整理して、どのように学ぶのかを選択させていく。
【そのために・・・】
・自分の現状と目標を確かめさせ、適した学び方を選択させていく
・それぞれの学び方の利点と欠点を伝える。

具体的な手だて③

・「振り返る」場面において、単元の途中でその時点までの自分の学び方を振り返らせ、修正させていく。
【そのために・・・】
・単元途中の場面までの学習内容の習得状況をまず振り返ることで、学習方法が適切であったかどうかを自ら考えられるようにしていく

校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・管理職の授業観察や校内研究授業（事前授業も含む）の際には、指導案を教員に配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。
・各単元において、見通しをもって単元計画を作成し、学び方の到達目標を明確に設定する。

総括（5月）

校内研究の全校児童へのアンケートでは、「自分で計画を立てて学習していますか。」の項目で68. 2%、教員へのアンケートでは、「児童の資質能力を育むために、単元や題材の学習を通して『いつ』『何を』『どのように』評価するかを明確にしている。」の項目で63.2%と肯定的な回答の割合が低い。この結果から、児童が受け身になるような授業展開が多く、児童に目標や目的をもたせるための計画的な授業が進められていないと考えられる。そこで、日常の授業において見通す、選択する、振り返る場面を設定し、児童が学び方を修正しながら見通しをもって学習を進められる授業の実践を授業改革の芯に据えた。

総括（1月）

児童に対して行ったアンケートでは、「自分で計画を立てて学習していますか。」の項目では、肯定的回答が 68.2%から 74.9%に上昇した。また、「学習した学び方を次の学習につなげることができていますか。」の項目では、肯定的回答が 76.7%から 87.3%に上昇した。その背景として考えられるのは、教員が授業の中で学び方を選択できる場面を意図的に設定したことが挙げられる。その際、どの教員でも実践できるように、児童の選択場面を意図的に設けた各教科の単元計画例を考え、周知した。今後の課題としては、児童が選択する場面を取り入れた授業は少しずつできているが、各教科の見方・考え方を働かせた深い学びによりつなげていくことが挙げられる。児童が自分の学習を進めている際の教員の役割などを全体で確認し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改革に努めていく。